

「おさるがらねをかきま〜」(プラン)

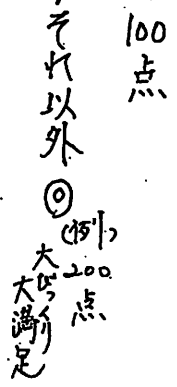
→ 追求単位

① 大問題

「さかばちいらかい」やるほどおさるが大喜びしたのはなぜか。

「ほんとにじゅうずいかけだから」

「自分の絵を何点だと思っはのめ。」



② 追求する言葉「ほんとに」

「じゅうずい」を100点として考えていく。「ほんとに」を予想外(予想以上)と捉え、「ほんと」を「ほ」をつけたことで、とてもびっくりし大満足しているおさるの「さかばちいらかい」やりま〜」につなぐ。

③ 解釈(プラン)

「ふおでも」だけを見ると、ひまなおさるが何でかいらひまなぶーをしようと考えているようにも受け取れるが、そうではない。「ひまなぶー」と「セツト」を考えると、何かを試そうとして、るのである。〇行目を考えたとする。おさるは常々「じゅうずい(100点)な絵を描きたい」と思っている。描くものは何でもかにかおさるは「さかばちいらね」をかいたのである。こう考えると、四連に「プラン」の四連を見ると、おさるは「さかばちいらね」をするほど、大満足している。自分の絵は大満足している下である。じゅうずい(100点)を何回もすればいい。という考えもある。おさるは「さかばちいらね」を並立して連続するようになっている。しかもそこが重要ではない。

おさるが大喜びの原因は、「ほんとにじゅうずい」に「こと」である。これは、おさるが願った100点満足の絵には「こと」のほ、それ以外の点数なのか。この問題を解決するために、おさるが「ほんとにじゅうずい」とどこから思っているのかを考えてみる。

船は... 95点(例)

「一連は、何点か?」二連の評価が二連に書かれていたが、二連でえんとつ、いっほんといてるところから、まだ思っているところである。「二連は、何点か?」三連は、いっほんとに「さかばちいらね」と評価されているところから、まだ物足りなさを感ずる。二連も「さかばちいらね」で「三連で」。「さかばちいらね」をおさる自身仲間が「かくてさかばちいらね」と関連づけようと考えている。二連から四連に「いっほんとに」は「さかばちいらね」と書かれている。しかも「ふおでも」では「さかばちいらね」と二連に書かれていない。はずである。

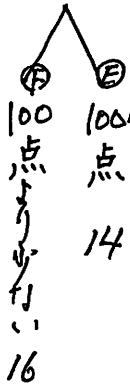
そして、三連。「さかばちいらね」一本つけたことで、四連の「ほんとにじゅうずい」という評価が生まれている。いっほんとに絵を描きたいと思っ、二連でえんとつをいって動く船に、三連では動き方を表すために「ほ」をつけてくおさるが描きながら「ほんとに」を「さかばちいらね」の絵に満足している様子が見えらる。

三連で、いっほんとに「ほ」をつけてみると、自分... 自分... の描けたい絵ができた。おさるの予想を回るために考えた「さかばちいらね」が下で、そのことが「ほんとに」という言葉に表われている。もう、100点どころか、100点にも100点にも、おさるの中心には「さかばちいらね」である。X 瞬間のことだから

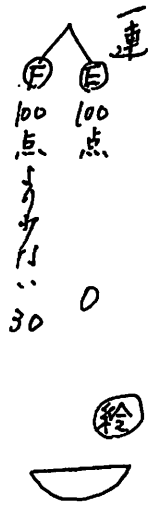




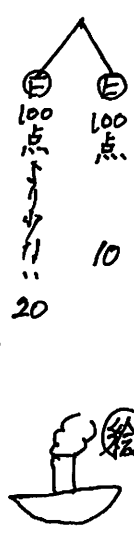
T22 もう一回教えて。



じゃあ、詳しく①のかたまり(一連)から読んでいこう。それぞれのかたまりで何点ぐらいか？



二連



証拠はない？見てきて。

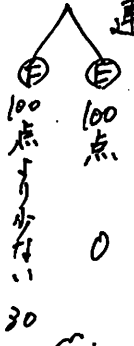
えんとつ一本立てて、百点に100にかかっているか？の証拠をちゃんと見つけていこう。

百点じゃ100の証拠。えんとつ一本立てたら、どうなの？えんとつ、三番(三連)の所に、たんだかすーさみーいとして書いてあるから百点じゃない。

同じ(他の子に、まわらせる。)

えんとつ立てただけじゃ、何だかサミサミーいと思っただけ。それで、さみーい一本つけたんだよね。だから、えんとつ一本立てた時、百点あげられる？、あげられない？

二連

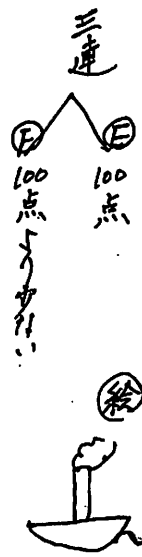


(No.2)の対立はつづいてる。



T24 T25 T26 T27 T28 T29 それで、(三連)たんだかすーさみーい、さみーい、ほんぷり、たらつ、

百点。(No.2)はたんだかすーさみーい、百点になったのか、それともまだまだなの？



百点のわけ言いたい。ほんとにじゅうすたにかけたな。

(他の子に言わせる。) ほんとにじゅうすたにかけたな。ほんとにじゅうすたにかけたな。ほんとにじゅうすたにかけたな。

四連



たんだかすーさみーい、

先生が、百センチとぶ飛飛行機を作ろうと思っただけ。ほんとにじゅうすたにかけたな。ほんとにじゅうすたにかけたな。

ほんぷり、たらつ、それじゃ百センチより上か？の下なの？

上。(No.2)はたんだかすーさみーい、

もっと上。

もっと上と思っ人？(多数挙手) このおさるさんね、上手に絵をかきたい。上手に絵をかきたいと思っ人？、最後は、ほんぷり、たらつ、それじゃ百センチより上か？の下なの？

それじゃ、何をいかにいうと、読んで。

(No.2)はたんだかすーさみーい、読んで。